



学校だより

12月号 第421号

教育目標：自分がすき 友だちがすき まちがすき 進んで学ぶ 山田の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamata/>

外で学ぶ 外部の方に学ぶ

校長 金森 孝子

11月の朝会で、次の二つの言葉を紹介しました。「秋の日はつるべ落とし」「小春日和」。子どもたちの行動について、言葉と絡めながら話したのですが、11月も終わりに近づくにつれ、この2つの言葉を実感する日々が続いています。「木枯らし1号」が吹いたという知らせは、今現在（11月24日）ありませんが、確実に秋は深まり、冬支度を進める人々の様子が窺えます。



感染状況が落ち着き、10月の運動会を皮切りに、ゲストティーチャーを学校に招いての学習や学校外へ出かけての学習を実施しました。大きな

行事としては、9月の非常事態宣言下において、キャンセル費用の発生や今後の感染状況の予測が難しかったことから、5年生の西湖体験学習は、日帰りの八景島シーパラダイスへの校外学習へ、6年生の箱根修学旅行は、日帰りの鎌倉修学旅行へ変更することに決定しました。学校行事が子どもたちの成長に欠かせないことは言うまでもないことですが、感染防止、教育効果の両面から内容の検討を重ね、今回の11月実施となりました。お天気にも恵まれ、子どもにとっても教職員にとっても充実した一日となりました。

その他の学年でも、実施可能な学年から計画を立て、学校外に出かけたり、学校外の方々から学んだりする学習を取り入れています。1年生は「こどもの国」2年生は「ズーラシア」へ、主に生活科の学習を視野に入れた遠足にいきました。中学年は、学校に専門家を招いての学習を実施しました。3年生は、東山田地区の消防団の方々、4年生は、資源循環局都筑事務所の方々から、共に社会科の学習として、地域の安全や生活環境を支える働きについて学びました。中学年は、今後、校外学習として、主に公共的な施設への見学を盛り込んだものを考えている



のですが、施設、移動手段の制限もあり、計画そのものに苦慮しています。先日、NHKのニュース番組で、コロナ禍の学校行事についての放送がありました。東京の小学校を取材したものでしたが、施設の予約が取れない、お弁当を食べる場所がない、雨天の場合の対応、移動手段と、悩みはどこも同じだな、と共感したところです。今後のお知らせをお待ちください。

冬休み前には、個人面談、土曜参観を予定しています。感染拡大防止への手立てを講じながら、子どもの成長と学校での頑張りを保護者の皆様感じていただけるような工夫をしていきたいと考えています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。